

藤樹書院・良知館通信⑬

『己れに克ち、礼に復えるを仁と為す(克己復礼為仁)』

藤樹書院 志村 洋

藤樹先生の「論語解」から。

「顔淵、仁を問う。子曰く、己れに克(か)ち、礼に復(か)えらるるを仁と為す。一日己れに克ち、礼に復えれば天下仁に帰す。仁を為すは己れに因る。而して人に因らんや。」(顔淵篇)

顔淵が仁のことをお尋ねした。先生は言われた。「(内に)わが身をつつしんで(外は)礼(の規範)にたちもどるのが仁ということだ。一日でも身をつつしんで礼にたちもどれば、世界じゅうが仁になつくようになる。仁をおこなうのは自分次第だ。どうして人だのみでしようか。」(金谷治さんの「論語」訳注から)

この章は至聖といわれた顔淵(名は回)が初学のときに仁を知らなければ徳に入ることができないので師に尋ねたものです。

藤樹先生は最初に「徳愛(明徳の慈愛)を仁と名づく。万物一体の本心なり」として、礼は明徳の条理であり、名義は異なっても実体は同じものだといわれます。そして己れとは意必固我の私欲であるとされるのです。

私欲は五事の良知を欺き聖学の道を離れる原因になるものです。克つとは私欲を除くことですが、それを

敵だとして先生は勝つのだとされるのです。そこに私欲から脱することへの先生の強い決意を感じるのです。

「礼に復えるを仁と為す」というのは礼と仁は同じなので当然であるとしても「仁を為すは己れに因る」とあるように私欲を克去して万物一体の本心に復えるためには自分が為すよりないのだという先生の切実な思いが、この章を最後に選ばれた理由であると思えてならないのです。

「顔淵曰く、請う、其の目(もく)を問うと。子曰く、礼に非ざれば視ること勿(なか)れ。礼に非ざらば聴くこと勿れ。礼に非ざらば言うこと勿れ。礼に非ざらば動くこと勿れと。顔淵曰く、回、不敏と雖(いえども)請う、斯の語を事とせんと。」(上文のつづき)

顔淵が「どうかその要点をお聞かせください」といったので、先生はいわれた。「礼にはずれたことは見ず、礼にはずれたことは聞かず、礼にはずれたことは言わず、礼に外れたことはしないことだ。」顔淵は聞いた、「回はおろかではございませんが、そのお言葉を実行させていただきましよう。」(前同)

顔淵が師に請うたのは「克己復礼」の細目です。一概に私欲といっても多くの様態があるので、どこから手をつけてよいのか分からなかったのです。

先生は孔子が非礼であれば視・聴・言・動すること勿れといわれた最後の「動」を思と貌を含(か)ねたも

のであるとして、次のようにいわれ

ます。
「聖学の道五事の上に在りて放心(本心を放れた心・私欲)を收むるほか他事なきこと、是において観るべし。視聴言動皆思を主とする。故に四勿の功、心上において思の邪の克去を本とする。」

私欲に勝つことがすべての根本であるといわれるのです。自分のもとで学ぶ若い同志諸生に私意私欲を克服して万物一体の本心を明らかにすることが聖学への唯一道であること

賛助会員一覧

★新規賛助会員のご紹介

令和四年四月十五日までに、本会にご加入いただきました賛助会員をご紹介します。ご加入ありがとうございます。

○清水安三記念館
(高島市新旭町北畑)

★既加入の賛助会員一覧

ご協力ありがとうございます。

- ウエストレイクホテル可以登楼
- 税理士法人 淡海総合会計
- 大津公証人会 白髭博文
- 大溝工業 株式会社
- 株式会社 大山建設
- 岡本アルミ建材 株式会社
- 株式会社 オミツ
- 川島酒造 株式会社
- 川島織布 株式会社
- 株式会社 Grow's

- 株式会社 桑原組
- 有限会社 宏和商事
- 税理士法人 小畑会計事務所
- 佐治タイル 株式会社
- 株式会社 澤村
- 株式会社 シグマックス
- 有限会社 白浜荘
- 新旭電子工業 株式会社
- 杉橋建設 株式会社
- ソエダ 株式会社
- 高島鋳建 株式会社
- 田中マネジメント事務所
- 株式会社 TADコーポレーション
- 鉄屋商事 株式会社
- 寺子屋まなびし童心塾
- 有限会社 天平フーズ
- 株式会社 戸井薬局
- とも栄 藤樹街道本店
- 株式会社 ナカサク
- ナカシヨウ 株式会社
- 株式会社 中田運送
- 中村印刷 株式会社
- 株式会社 中村測量設計
- ニツケイ工業 株式会社
- 八田建設 株式会社
- 有限会社 馬場塗装
- 富士包装紙器 株式会社
- 戸次会計事務所
- 株式会社 ホリゾン
- 株式会社 ヨシダヤ
- 株式会社 リンクス
- 有限会社 綿庄食品店 (五十音順)

お詫びと訂正

★前号(第28号)1頁の写真「神龕欄間」と「笹竹」と算木カド」を反対に載せていました。お詫びして訂正いたします。